

サハリン事務所現地レポート

2019年1月

(件名) サハリンの冬事情～氷上釣り編～

報告者：主査 阿部 大祐

「神は釣りで過ごした日を寿命としてカウントしない」。釣りは神聖な行為なので寿命が延びるというロシアの諺であり、いかに釣りを重要視しているかがうかがえる。先日、現地の方に誘われてユジノサハリンスク郊外で氷上釣りを行った。当地ロシア人の冬の過ごし方のひとつとして報告する。

まず、現場に行くと驚くことは氷上釣りに興じる人々の多さである。当日は、早朝にも関わらず一つの区域に200人以上が釣りを行っていた(写真1)。氷上釣りは、氷の厚さ具合、引き潮・満ち潮加減、群来の回遊ルート想定などの事前の情報収集、他の釣り人との情報交換や釣果の覗き見によって、釣りポイントを定めるところから始まる知的なゲームである。最初の作業はスクリューによって氷に直径20センチ大の穴を穿つことである。その後、テントを張り、内部に軽食用テーブルに持ち寄ったウオッカ、おつまみを並べ、穴の前にイスを置いてさて釣りの開始である。当地氷上釣りでは、サビキ釣りによりコマイ、キュウリウオ、樺太シシャモ、鯿などを獲る。この日はコマイとキュウリウオが多く取れた。使用される竿や疑似餌は日本製が大変好まれており、サハリンには日本からの輸入品を取り扱う釣具店も多い。

氷上釣りの休憩はテントのなかで、つまみを食べて体を温めるためウオッカを飲み、そして談笑をする。ロシア人の休息と人生観を学べた。なお、この日の釣果は4人で500匹以上(写真3)。コマイはその場で頭を落として内臓を取りきれいにし、家のバルコニーで一夜干しにするという結構重い労働が待っている。「釣りとは休息であり、また労働である」、諺のとおりの日であった。



写真1：氷上釣りに興じる人々



写真2：テントで休憩



写真3：コマイとキュウリウオ

(件名) サハリン州における観光関連施設の整備

報告者：所長 佐藤 知至

2018年のサハリンの域内総生産は、初めて1兆ルーブルを超える1兆1,490億ルーブルとなったが、その約9割は原油・ガスなどの鉱物資源によるものであり、サハリン州では新たな経済の柱として観光に力を入れ、関連する大型施設の整備・工事が進んでいる。

その核となるのが、TOR(特区)の1つである「山の空気」であり、観光に特化した開発が進められている。中心となるスキー場は2022年までにコースを40にまで増設、一部のエリアの通年使用も計画されており、今年は雪不足に悩まされているが、5月には新しい降雪機も設置される予定である。リマレンコ知事代行は、ここを「世界的な保養地にする」としており、北海道の温浴施設「ほのか」やジュニア国際スポーツ競技大会「アジアの子どもたち」の選手村としても使用される「ユーナスチ」など周辺施設の整備も進んでいる。

人の受入に欠かせない空港については、新ターミナルが2020年のオープンに向け建設が進んでいる。ターミナルの面積は現在の4倍、施設はバリアフリー化され、簡易ホテルや市場の併設も計画されている。併せて新しい滑走路の建設も協議されており、構想では、工事期間は2022年から2025年、予算額は130億ルーブルとなっている。

また、昨年1月にはコルサコフ港、9月にはホムトヴォ空港に電子ビザが導入され、ビザ取得手続きが大幅に簡素化。先行して導入されたウラジオストクでは、2018年の日本人観光客が前年比15%増となっており、サハリン州においてもその効果が期待されている。

一方で、上記施設整備には一部遅れが見られ、また街中における案内表記や観光資源の発信手法などについては「外国人目線」からすると更なる検討が必要と思われる事項も多い。また極東ではウラジオストクで導入された免税店制度のサハリンでの展開など、制度面での新たな取り組みも期待されることである。



「山の空気」エリア宿泊施設・ユーナスチ